

< M5i高速デジタイザの特長と応用例 >

概要

[DDRメモリのタイミングの測定の例]

クロック、データストロブ、データ信号自体という3つのデータおよびタイミング信号をStar-Hubにリンクされた3つのM5i.3360-x16シングルチャンネルデジタイザを10 GS/sで信号を取得。

[SCAPPアプリケーションの例(デジタルダウンコンバーター(DDC))]

M5i.3337-x16デジタイザカードのサンプリングを6.4 GS/sのレートで使用して、最大転送速度12.8 GB/秒で Nvidia RTX A4000 GPUに直接連続的にストリーミングされ702MHzから2MHzにダウンコンバート

[DPGの応用]

M5iシリーズデジタイザが、自動テスト 機器のトリガと同期、実験用の制御ライン、RFソースのキーイング用のゲート信号用のパルス信号を出力できるようになる。ゲート付き RFソースは、レーダー からキーレスエントリーシステムに至るまで幅広い RF デバイスで使用。

主な仕様・特長

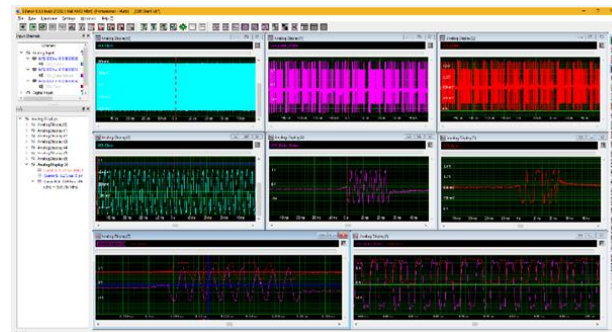


デジタイザ M5i.335xx-X16
2チャンネル, 12ビット, 最大10GS/S
帯域 ~4.7Ghz
最大メモリ 8Gsamples
転送速度 最大12.8GS/s

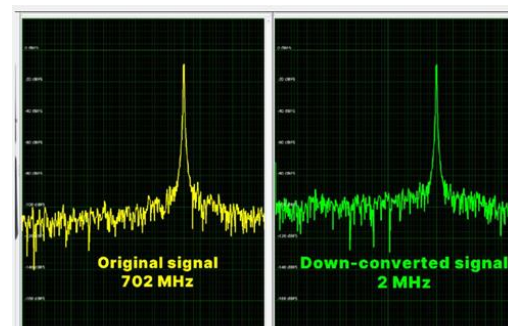
SBench6

プログラムなしで、測定条件の設定、測定データの表示、格納、演算(FFTなど)、データのexport。Importが出来るツール

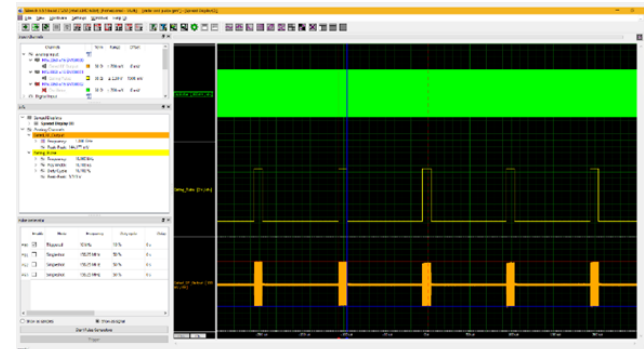
SBench6-Proでの解析例



DDRクロック、データストロブ、およびデータ信号の3チャンネル取得。信号のズームビューとともにSBench6に表示されます。



元の信号のスペクトルと、SCAPP 実装のデジタルダウンコンバーターで処理された後のダウンコンバートされたバージョンのスペクトル。



DPGオプションをゲートソースとして使用し、外部RFスイッチを使用して1 GHz 発振器出力からパルスレーダー信号を生成します。